横浜市小学校社会科研究会

５学年部会

研修会記録

第　４　号

令和４年　10月　５日
横浜市小学校教育研究会
会長　　徳江　武司
横浜市小学校社会科研究会
会長　　加藤　和之
同　学年部長　　宮原　美由紀

【提案日時】
９月　７日（水）

【会　場】
横浜市立　　平沼小学校

提案	笠井　俊充	先生（永田台小）
司会	杉内　翔太	先生（大豆戸小）
記録	植木　雅之	先生（永田小）
提案	永澤　大地	先生（本牧小）
司会	田澤　哲哉	（常盤台小）
記録	小池　智宏	先生（鴨志田第一小）

永田台小　笠井先生

１　提案内容　単元名

単元名「森林とともに生きる
～カートカンから考える森林の未来のためにできること～」

２　提案者より

視点①

〇子どもの主体性

・学習問題や次時の課題について子どもたちからは出にくいので、どういう手立てが考えられるか。
・子どもにとって身近ではない材をどのように自分ごととして捉えさせることができるか。

視点②

〇単元の流れ

・カートカンを使うことで森林が豊かになっていくということに課題を見出せるか。
・カートカンを単元の中心に位置づけて学習していく流れと、間伐について学習をしてからカートカンが登場する流れで迷っている。

３　協議会

〇単元の流れについて

・カートカンを導入で提示し、森林育成の学習を挟んでカートカンはどう作られているかと子どもの思考は流れるのだろうか。
・間伐について本時まで提示しないことには無理がある。

・調べる過程で間伐について子どもたちは知ることになる。
・カートカンを中心に単元を作り直すとよい。
・間伐について学習してから、カートカンを提示する方法も考えられる。
・子どもにとって身近ではない単元なので、課題を自分ごととして捉えられる手立てが必要。
・カートカンのラベルをじっくり見ることで、いろいろな情報を得ることができる。
・子どもが得た情報をつないでいくとよい。

〇本気の学習問題について
・人の営みから学習問題がでるようにしたい。
・売上は、缶は200億円、カートカンは2億円。
・カートカンに携わる方の思いはどうなのか。
・もっと普及させたいと思わないのか。
・少しずつ普及させたい。（どうして？）
・子どもから疑問を出させるために必要な手立ては、もりかみ協議会のSさんとの出合わせ方。
・Sさんの思いに気付かせる単元構成にしていくとよい。

本牧小　永澤先生

1　提案内容　単元名
単元名「未来を作る情報産業～N局の番組作り～」

2　提案者より
〇教材について
・放送局で体験活動ができることになった。
・放送局では多くの人が関わって番組が作られている。
・今回取り上げる、Nさんはメディアの仕事に興味をもってほしいという思いをもっている。取材を尽くすことが大切と考えていて、取材を尽くしても100％ではないと取材で聞いた。耳で聞いても、子どもが聞いても分かる情報を発信することを心掛けている。自分が書いたことで世の中がかわったらいいという強い思いをもっている。

〇指導評価計画
・発信者側にいつでもなれる子どもたちが、発信者側としてどうしたらいいか考えることができたらいいなと思っている。
・１時でN局の実際のニュース番組を視聴した後、２時・３時にかけてN局の見学、放送体験をする。そこから、テレビ番組を作るには多くの人が関わっていることをつかんで、展開していけるようにしたい。

〇単元目標とめざす子ども像

・情報を発信する側として情報の正しさ

・情報を発信するには多くの人が関わっていたこと

３　協議会

・今回取り扱おうとしている番組は、バラエティーのような時間を要する番組なのか、速報性を大切にする番組なのか。番組にもさまざまな種類があり、それぞれに特徴がある。⇒ニュース番組を想定している。

・横浜放送局にフォーカスするのか、渋谷の放送局で作ったものにフォーカスするのか。それによって、見学の位置づけや見る点が変わってくる。

・ニュース番組を作るにあたっては、取材した様々な情報が集まり、どの情報を伝えるのかデスクで整理する時間がある。どの情報をどう伝えるのかに目を向けてもいい。

・短い時間の番組を作るのに、多くの人がそれぞれの役割を果たしている。それぞれの仕事を見ていくことで、情報を伝える人の仕事が見えてくるのでないか。

・ニュース番組を作る際には正確さ、速さ、わかりやすさを大切にしていることが分かるようにしたい。

・N局は報道する際、両方の意見を放送、極端にならないようにしている。一つのニュースを事例に、どのくらい時間をかけているのかなど具体的に分かるように事実が分かってくるといい。また、反対の考えも取り上げる意図なども取材で分かってくるといい。

＜講師の先生より＞　大曽根小学校　宮本　雅司　校長先生・荏田小学校　伊藤　智樹　校長先生

森林とともに生きる（宮本　校長先生）

〇材（カートカン）とじっくり向き合う

・4年生で学習した水の単元をどのくらい深めているか確認する。

・カートカンのラベルをじっくり見ることで、「森林育成の応援」「緑の募金」など子どもの課題意識を高めることが記載されているので、いろいろな見方ができる。その見方、考え方を繋げていくことで子どもの本気の学習問題ができる。

〇教材研究をする視点について

・カートカンに携わる方の思い。

・少しずつ普及をさせたいと思っている。どうしてどんどん進めないのか。

・なぜ木材は国産30%なのか。

未来を作る情報産業（伊藤　校長先生）

せっかく体験ができるので、体験の位置づけを考えたい。本気の学習問題に迫るために体験するのか、単元を導入するのに体験するのかによって変わってくる。また、テレビ番組はたくさんあるので、どのような番組を扱うか、よく考えることが必要。報道に携わる人は中立性をとても意識している。報道に携わる人は「うたがってほしい」「１００％（の正確性は）無理だ」と考えている。同時に視聴者の視る力も考えていきたい。

文責　　田澤　哲哉　（常盤台小学校　）